

独自ラダーで経年別研修を実施、 医療事故ゼロへ基本の徹底を強化



三上看護部長

医療法人北志会札幌ライラック病院（下村晴信院長・三上初美看護部長、167床）では、人工呼吸器患者を積極的に受け入れながら、安心・安全の医療・看護の提供に取り組んでいます。

現在、51台の人工呼吸器を配備、全床のうち90床が人工呼吸器対応可能で、道内各地はもとより、本州方面からの患者も引き受けています。また、現在、全病室を冷房完備にするための工事を進めており、患者のアメニティ環境の充実にも取り組んでいます。

看護部においても、人工呼吸器を装着した重篤な患者に対する安心・安全の看護の提供に向け、さまざまな工夫・改善に取り組んでいます。その一つが、「看護の標準化」で、三上看護部長は、「師長、主任たちと話し合いながら、

教育の充実も取り組みの重点に挙げており、独自のラダー形式を取り入れ、今後、数年かけてじっくりと経年別研修を作り上げていく考えです。

昨年、院内研修は、気管内送管、急変時の看護、人工呼吸器、感染管理、医療安全など多彩に実施。人工呼吸器患者が多いことから、特に医療安全については、今年も力を入れて研修に取り組んでいく考えのほか、「ほうれんそう（報告・連絡・相談）」の基本事項を徹底して行い、医療事故ゼロに向け全職員が一丸となって取り組んでいます。

このほか三上看護部長は、重篤な患者さんの家族ケアや、個々の患者さんに合わせたマネジメントも重視しており、個々の看護職員の意識とアセスメント力を高めながら「患者さん本位の看護を深めていきたい」と志向。併せて、自身の重点課題として、看護部門のマネジメントを担う後進の育成を掲げています。

就任4年目となり、「とにかく

震災を経験した一人でもありません。今回の、東日本大震災による被災者に対し、同じ被災者として心を痛めるのと同時に、同病院に

愛心メモリアル病院（札幌市東区）

充実した研修体制で、

退院後の生活を見通した看護を推進



野中看護部長

はなく、退院後の生活も視野に入れた看護を意識的に取り組んでいます。

医療法人社団愛心館愛心メモリアル病院（金岡健院長・野中浩美看護部長、71床）の看護部には、今年、既卒者を含め11名が新規で入職しました。

おける災害対策の重要性も、改めて意識し、取り組みを強化していく考えです。

新人看護職員卒後臨床研修制度開始以前から、同院では新人研修体制を整備させてきており、充実した研修体制は看護師確保の目玉の一つともなっています。特に細かなフォローアップ研修は「とても充実しているのでは」と、野中看護部長も自負します。

今年、力を入れていきたいこと